三重県総合博物館情報誌

みえんしす 49号

1P▶3P 特集 第40回企画展
「地獄へようこそ　鬼と亡者と閻魔の世界」

4P 初めて尽くしの展覧会
金曜ロードショーとジブリ展

5P▶6P 映像展示をつくる
「刀を打つ　刀鍛冶職人　角谷健一郎の作刀」の場合

特集

第40回企画展

地獄へようこそ　鬼と亡者と閻魔の世界

第40回企画展「地獄へようこそ　鬼と亡者と閻魔の世界」について、担当の瀧川和也学芸員（仏教美術）と展示の補助をしている稲垣玲弥学芸員（博物館教育）の対談をお送りします。

泉武夫等編『国宝六道絵』を参考に、西来寺の六道絵について語り合う稲垣学芸員(左)と瀧川学芸員(右)

地獄を取り上げたきっかけ

瀧川：MieMuの開館準備段階からこわいものを展示してみようか、という話がありました。そんなアイデアを発展させて、今回地獄を取り上げることになりました。開館以来の仏教美術の展示や、長年の寺院調査の蓄積も、これを後押ししてくれました。これまでの調査では、地獄・極楽の絵との出会いも多くあり、何とか展示で活かしたいと思っていました。

稲垣：たしか、去年の夏に出前講座で子ども向けに地獄のお話をした時に、反応が良かったということですよね。子どもたちは地獄のことを知っていましたか？

瀧川：その時「地獄で舌を抜かれるって聞いたことはあるか」と聞いたら、約30人中1人が手を挙げて、「ママとおばあちゃんに聞いた」と答えたのが印象的でした。たった1人ですが、世代をこえて地獄の認識がつながっているのだとある種の感動を覚えました。

稲垣：私も「地獄」という言葉、「閻魔さん」の存在、舌を抜かれるということは知っています。物語やアニメでも地獄はよく取り上げられていますから、地下深いところ、火、鏡、地獄の釜、鬼と、いろいろ地獄から連想することはできますね。

瀧川：地獄については、世間が時々盛り上がるイメージがあります。昭和60（1985）年出版の石田瑞麿さんの名著『地獄』が令和2（2020）年に復刊していますが、この本に付された仏教学者の末木文美士さんの解説には「しばらく前、突然地獄がブームになった」「潜在的な関心は続いている」とあります。末木さんは、その理由について社会が停滞して下降に向かう状況や、高齢化、天変地異を挙げ、「それだけ後ろめたいことが多いのかもしれない」としています。感覚的ですが、大変的確だと思います。

地獄の位置づけ

稲垣：妖怪ブームといったものもありますよね。水木しげるさんの漫画などもこの世にあらわれる妖怪を取り上げるものの、墓場など死後の世界も意識させるものです。

瀧川：子どもにも妖怪は人気ですし、そこに登場する墓場などの描写から、死後の世界を感じることはあると思います。つまり、子どもでも死を意識することがあるわけです。私も、小学校低学年の時死んだらどうなるかが急に気になり、怖くなったことがあります。

稲垣：逆に私は、地獄などの“あの世”と死がつながらなかった記憶があります。中学校の頃に身近な人の死を初めて体験しましたが、喪失感があったけれど、“あの世”にはつながらなかった。そんな私だけど、閻魔さんのことは知っているわけです。私にとっては死後の世界というよりも、異世界という感覚かもしれません。

瀧川：地獄や閻魔さんのイメージも時代によってさまざまに変化してきますので、稲垣さんのような考え方も過去から存在していました。そもそも、閻魔

津市の代表的閻魔さん(津市上弁財町閻魔堂)

さんも不思議な方で、日本美術史的にみると鎌倉時代に急にその姿・かたちが明確になるような感じです。平安時代の説話集にでてくる閻魔さんは、偉い方で御簾の向こうにいて姿・かたちがわからない方でした。

今回のみどころ

稲垣：今回の展示では、奈良の東大寺から重要文化財の彫刻、閻魔王坐像をお招きするということですが、鎌倉時代のものということでしたよね。まさに閻魔さん登場ですね。三重県で確認される古い閻魔さんの像はありますか。

瀧川：三重県では、志摩市に室町時代の彫刻があります（志摩市指定文化財「木造十王像附脱衣婆像(残欠)、司命像、司録像」）。永享11(1439)年に造られ、永正12(1515)年に修理されたものです。こちらは、お盆に祭礼が行われており展示はかないませんが、現在でも地域の信仰に根付いている好例です。

稲垣：津市にも閻魔堂がありますよね。

瀧川：閻魔さんの彫刻に限らず、地獄を描いた絵画も、施餓鬼や地蔵盆といった夏の行事で使用されることが多いようです。現在、木像や絵画が残っているところでは、現在行事が行われていなくても、過去にはきっと行事があったのだろうと思います。ただ、地獄の絵図は掛軸で10幅以上のものもありますので、行事があったとしてもお堂に全部かけることはあまりなかったのではないかと思います。現在の所蔵者様も全部掛けたことはないと仰る方が多いわけで、当館の大型の展示ケースで全部掛けて観覧いただくというのは所蔵者様にとっても、観覧者の皆様にとっても貴重な機会になると考えています。

閻魔庁(六道之図、西来寺所蔵より)

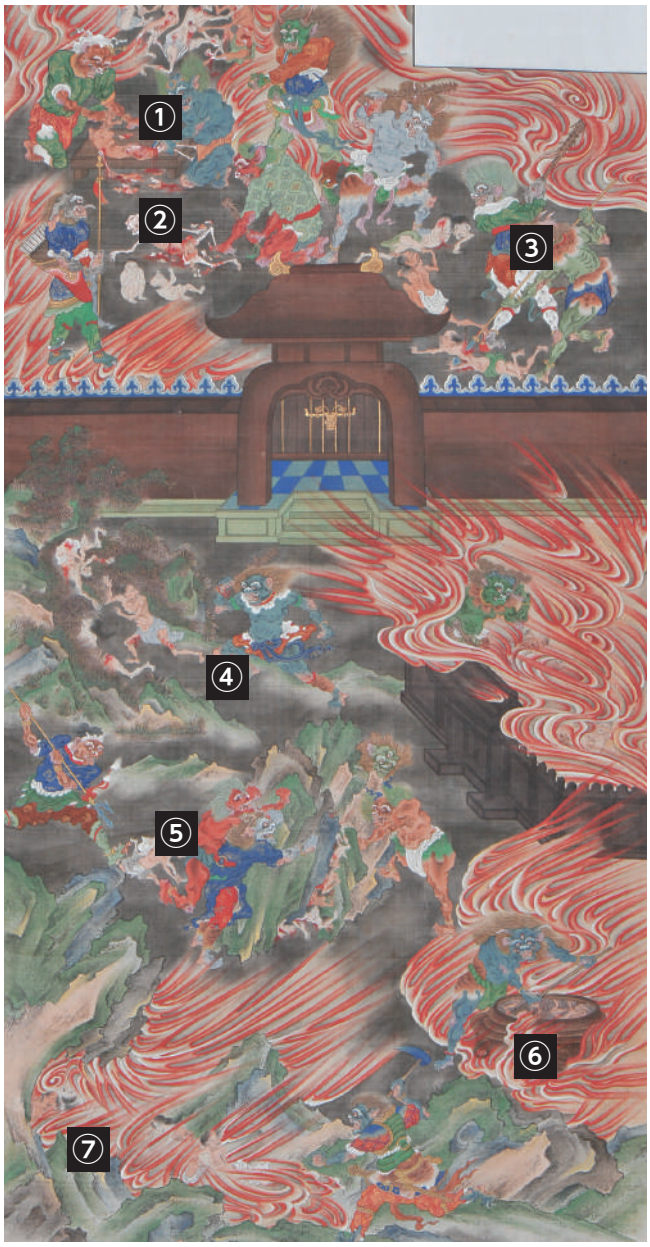
閻魔さんの絵画を読み解く

稲垣：きっと過去には、いろいろなところで地獄の絵図が掛けられるような祭礼があり、その中で絵画が読み解かれ地獄や閻魔さんのことを体系的に知る機会があったということですね。今回のポスター・チラシにも使った絵も同様でしょうか。

瀧川：今回ポスター・チラシで使用した閻魔さんの画像は、津市の西来寺所蔵のもので、同様に夏の行事で掛けられていたようです。

稲垣：この絵についてくわしく見ていきましょうか。

瀧川：この絵は閻魔さんの役所である閻魔庁の図です。①中国風の王の服装をまとった閻魔王、②閻魔王を取り巻く役人が描かれています。柱の横には③筆をとって判決内容を記録する司録、④閻魔王の判決を言い渡す司命がおり、多くは役所らしく皆巻物などの書類を持っています。⑤罪人に火を噴きかける頭がついた泰山府君幢、⑥善人に清浄な雨をもたらす閻黒天女幢もあります。⑦は生きている時の罪をすべて映す「浄玻璃鏡」、⑧⑨は人の一生の善い行い悪い行いを記録する係です。



等活地獄(六道之図、西来寺所蔵より)

稲垣：やはり役所ということで、閻魔庁の皆様は書類が欠かせないみたいですね。閻魔庁の事務仕事はなかなか大変そうですね。でも、この文書を管理することで閻魔庁は意外と公正な裁きができるのかもしれませんね。

瀧川：ちなみに、この絵図は十王経といわれる仏教の経典に基づき描かれたと思われます。西来寺の絵画は、ほかに人が生まれ変わる6つの世界の六道を描いたものが加わりますが、こちらは平安時代に記された仏教書『往生要集』が根拠となり、描かれたと考えられます。

稲垣：地獄の絵は六道之図に含まれるんですよね。

地獄の絵画を読み解く

瀧川：六道は地獄、餓鬼、畜生、阿修羅、人間、天と6つの世界に分かれています。そして、この世界がさらに細かく分かれます。西来寺所蔵の絵では、六道のひとつ地獄が取り上げられ、地獄の中にある等活地獄、黒縄地獄、衆合地獄、阿鼻地獄の4つの地獄が描かれています。地獄の中でも浅いところにあって、一番罪が軽い人がいくのが等活地獄です。

稲垣：等活地獄とは具体的にはどんな場所ですか。

瀧川：ここでは①地獄に落ちた人同士が鉄の爪で切り裂きあい②地獄の番人である獄卒は罪人をまな板に載せて切り刻み③鉄の道具で罪人を打つなどのシーンが描かれています。また、等活地獄の門の外側には4つの小規模な地獄「別処」があります。④刀輪処⑤闇冥処⑥瓮熟処⑦尿泥処があり、それぞれ動物などを殺生したものが入れられています。

稲垣：②のようにまな板にのせられたり、⑥のように釜でゆでられたり、普段我々が調理等で生き物に対して行っている行為が、自分たちに返ってくるという点に、恐怖感と逃れ難さがありますね。

瀧川：このように、地獄を細かく描いた絵画が4幅あり、それ以外に六道や念仏の効果を描いたものと、最初に説明した閻魔庁を含めて、全15幅のボリュームです。

稲垣：まず地獄の絵図をしっかり読んだうえで、彫刻など他の資料を観ていただくと理解が深まるわけですね。時間がある方はぜひ挑戦してほしいですね。今回紹介した2幅だけでも大変な情報量ですので、わかりやすいコンパクトな解説を心がけたいと考えています。

瀧川：彫刻をみるならば、この絵画の地獄のイメージを立体としてどのように造形しているかを注目してほしいですね。ぜひ、地獄の展示へお越しください。

第40回企画展
地獄へようこそ 鬼と亡者と閻魔の世界

令和7(2025)年7月26日(土) ～ 9月23日(火・祝)
毎週月曜日休館(祝日の場合は翌平日)

【観覧券】 企画展のみ
一般800(640)円　学生480(380)円
セット券
一般1,050(840)円　学生630(500)円
高校生以下　無料

( )内は前売及び20名以上の団体料金です。
障害者手帳等の交付を受けている方とその介護者1名様は、無料となります。毎月第3日曜日は家庭の日で、団体料金でご覧いただけます。

ミュージアムレポート Museum Report

初めて尽くしの展覧会　金曜ロードショーとジブリ展

令和7(2025)年4月11日(金)まで開催した「金曜ロードショーとジブリ展（以下「ジブリ展」）」は、約23万人とこれまでのMieMuの展覧会では、最も多くの方にご来場いただきました。今回は、開館10周年にして色々な“初めて”があったジブリ展の裏側を、少しだけご紹介します。

大型車両が2台並んだ！トラックヤード

2台並んでジャストサイズ

展覧会準備の際には、他館等から借用した資料を展示室へ搬入する作業があります。その入口となるのが、輸送車両が入るトラックヤードです。MieMu の場合は、歴史から自然まで幅広い資料を取り扱うので、考えられる限り１番大きいもの（例えば恐竜の復元標本など）を想定して建物を建設しています。ここまで大きなトラックヤードは他の博物館と比べても珍しく、限られた設営期間でも効率的に作業できるようにしています。

開館準備室時代の上司が「何でも展示できるように10トン車が入るヤードが必要だ！」と計画し、実際に大型車両２台が横並びした光景は壮観でした。当時の上司は既に亡くなられましたが、狙い通りに役割を全うしたトラックヤードをきっと喜んでくれたのではないかと思います。

真っ暗な空間を作る！ 6mの仮設壁

資料の搬入に続いて、次は会場設営です。ジブリ展では、幻燈楼という影絵と音楽で演出する資料のため、光が漏れない真っ暗な部屋が必要でした。企画展示室には、レール上を移動させて空間を仕切る間仕切り壁がありますが、それだけでは足りずに仮設壁も作りました。これまでの展覧会でも仮設壁は作りましたが、6mの天井まで届く大きな壁は初めてです。

壁の組み立てはチームワークが命

「そんな大きな壁、一体どう作るんだろう？」と興味津々で見守っていると、大工さんたちの手によってあっという間に壁が出現！写真の壁と内側を合わせるように繋ぎ合わせ、更に天井付近の隙間を塞ぎ、綺麗に壁紙を貼れば完成です。

一体どこへ消えた！？本棚と円卓の行方

さて、冒頭でご紹介したように、ジブリ展ではMieMuにとって前代未聞の来場者の方がお越しになりました。混雑対策のひとつとして行ったのが、ミエゾウ前にある三日月のようなカーブを描いた２つの本棚と大きな円卓の撤去でした。特徴的なこのエリアは、ゆったりと三重に関連した図書をご覧いただく場所として多くの方に親しまれていましたが、背に腹はかえられません。外してみると想像以上に開けた空間ができ、お並びいただく順路もわかりやすくなりました。

MieMuは開館10周年を越え、まだこれからが始まりです。今後の展覧会でもどんな“初めて”があるのかお楽しみに！

ミエゾウを眺めて入場待ち

中村　千恵
博物館学

博物館を利用することで、利用者の人生にどのような影響を与えるのか、長期的な視点で調べたり考えたりしたいと思っています。

ミュージアムレポート
Museum Report

映像展示をつくる

「刀を打つ　刀鍛冶職人　角谷健一郎の作刀」の場合

令和６(2024)年度に開催した開館 10 周年記念・第 38 回企画展「刀剣 三重の刀とその刀工」では、村正や正重など三重で活躍した著名な刀工を含む27人の作品59点に三重の地にゆかりの刀10点を合わせ、全69点の刀剣を紹介することができました。当館の前身である三重県立博物館が、昭和34(1959)年に「郷土刀工鐔工顕彰展」を開催して以来、実に 60余年ぶりの本格的な刀剣展となりました。PCブラウザ&スマホアプリゲーム『刀剣乱舞ONLINE』とのコラボのお陰もあって、1万6千人(開催日数51日間)のお客様にご観覧をいただくことができました。

企画展風景

企画段階での迷い

展覧会を企画する時はいつもそうですが、どんな資料を使って何から話を始めるか、悩みます。今回は刀剣がテーマでしたが、その中でも特に郷土刀にスポットを当てることになっていましたので、県指定有形文化財の金銅装頭椎大刀（明和町／坂本１号墳出土）など、先ずは権力や権威の象徴としての大刀を、古墳から出土した考古資料を用いて紹介しようと考えました。しかし、60年以上も刀剣の展示を開催できなかった当館にとっての“最初”は、やはり刀の作り方ではないのか、砂鉄があの美しい刀剣に変化していく過程とその道具をまずは紹介すべきではないか、とも考えとても迷いました。

「原料や道具の展示だけでは伝わらない」

当館では、企画展の準備を進めていく過程で幾度も検討会議を行います。企画展の内容は勿論ですが、タイトルやポスターのデザインもこの会議で検討を重ねます。その中で議論になったのは、作り方の紹介は意義のあることだが、写真や言葉だけではわかりにくい、やはり動画を駆使してその過程を伝えるべきではないかという結論に達しました。しかし、作刀の一部始終を撮影することは並大抵のことではありません。かと言って他機関で制作された動画を借用して上映するとなると、今回の郷土刀をテーマとする趣旨から逸脱してしまいます。また、編集するとなれば当然著作権の問題も生じます。「やはり難しいか…」、一度は動画の制作は暗礁に乗り上げました。

県内唯一の刀匠との出会い

「熊野に刀鍛冶がいらっしゃる」

そんな情報がもたらされたのは、開催まであと１年半、そろそろ会場のレイアウトを固めていかなければならない時期でした。筆者が、かつて三重県教育委員会事務局の文化財保護室（当時）で刀剣の登録事務を担当していた平成16～19(2004～2007)年頃には、既に新作の刀剣類の登録手続きは行われていませんでしたので、県内での作刀は途絶えたものと思っていました。そんな時にもたらされた朗報に大きな希望が湧いてきました。

刀鍛冶職人の角谷健一郎さんは、国の承認を得ている県内唯一の刀匠です。各地で修業をされ、平成22(2010)年に熊野市五郷町に工房を開かれました。角谷さんが取り組まれている作刀の様子を撮影し、企画展の冒頭で放映させていただけないか、すぐに車を走らせ熊野へお願いに向かいました。角谷さんにお会いするまでは、「刀匠」と聞いて、勝手に少し寡黙な職人気質の方を想像していたのですが、それは作刀に打ち込まれている時だけで、普段はおしゃべり好きのとても気さくな方でした。角谷さんには、今回の博物館の取組の

ご賛同をいただき、作刀風景の撮影についてご許可をいただくことができました。

先ずはシナリオづくりから

ひと口に映像を作ると言っても、全て私たち学芸員が担当することとなりますから大変です。まずはどのような構成にするのか、どの場面を撮影するのか、シナリオづくりから開始です。企画展の冒頭で放映する映像という性格上、長い時間はご法度です。15分程度にまとめるよう、映像に合わせてアフレコする解説文も考えながらの作業は難航し、角谷さんにもご助言いただきながら、実際に撮影を開始できたのは、なんと開催半年前でした。こんなタイトなスケジュールにも拘らず、何度も何度もやって来る撮影隊（２～３名ですが…）の無理なお願いにもご協力をいただき、刀を一振り仕上げる工程を実際にご紹介くださいました。また、インタビューにも応じていただき、刀匠ならではの刀剣に対する想いを語ってくださいました。

さて、撮影を終えたら次は編集です。なんと撮影だけではなく、編集もナレーションも学芸員が担いましたが、優秀な市販の編集ソフトと担当した学芸員の地道な努力によって、完成度の高い映像を作ることができました。また、映像を映し出すスクリーンに隣接する展示ケースに、作業工程に登場する材料や道具も展示したことで、より臨場感をもって映像をご覧いただけたのではないでしょうか。

映像で伝えたかったこと

刀匠の数は、年々減り続けています。優れた作品をより良い状態で保存し未来に伝えていくことは大切なことですが、映像で紹介しているような刀剣を作り出す技術の継承は、このままで大丈夫なのか心配です。でも、そんな中角谷さんのように日本刀の未来について真剣に考えている若い方の存在は、一条の光明と言えるのではないでしょうか。映像を通じて、刀剣の未来についても考えていただけたら幸いです。

映像「刀を打つ　刀鍛冶職人　角谷健一郎の作刀 」

〔出演〕　角谷健一郎（刀鍛冶職人　刀匠）
〔協力〕　一般社団法人　全日本刀匠会事業部
　　公益財団法人日本美術刀剣保存協会協力団体三重県支部
〔構成〕　宇河雅之（三重県総合博物館 学芸員）
〔撮影〕　瀧川和也（三重県総合博物館 学芸員）
〔編集〕　門口実代（三重県総合博物館 学芸員）
〔ナレーション〕　瀧川和也（三重県総合博物館 学芸員）
〔企画・制作〕　三重県総合博物館
　当館 YouTube チャンネルで公開中
　https://www.youtube.com/@Miemu

角谷健一郎氏との打ち合わせ

インタビュー収録風景

映像の上映風景と関連道具の展示風景

宇河　雅之
古代史・民俗（民具）

学生時代は律令期の葬送儀礼について調べていました。特に持統太政天皇の火葬採用の理由とその背景は、現在も研究テーマとしています。

宇河学芸員自身が刀剣展を解説するニコニコ美術館の映像もあります。

刀工 千子村正ゆかりの地
三重県の刀剣を鑑賞しよう
「三重の刀とその刀工」

YouTube　ニコニコ生放送

MieMu からのお知らせ

利用案内

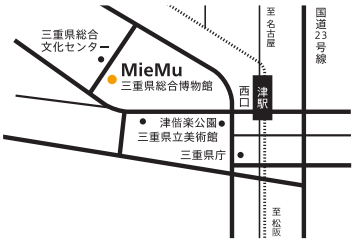
■ 利用時間
午前９時～午後５時
（基本展示室、企画展示室の最終入場は、閉館30分前まで）

■ 休館日
月曜日（祝日の場合は翌平日）、
年末年始（12/29 ～ 1/3）、
その他別途定める日

■ 観覧料

基本展示室	一般 520円（410円）、学生 310円（240円） 高校生以下無料　※（　）内は団体料金
企画展示	展覧会ごとに別途料金を定めます。 詳しくは各展覧会のお知らせをご覧下さい。
年間パスポート	一般 1,670円　学生 1,040円

※障がいをお持ちの方のご見学についても、お気軽に館内スタッフへご相談ください。
お電話での事前のご相談も承ります。



MieMu みえむ 三重県総合博物館
MieMu: Mie Prefectural Museum, Japan

三重県津市一身田上津部田3060（三重県総合文化センター向かい）〒514-0061
tel 059-228-2283（代表）　fax 059-229-8310　mail MieMu@pref.mie.lg.jp
web https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/
X（旧Twitter）@mie_pref_museum
facebook　@mie.pref.museum
Instagram　miemu2014
YouTube　https://www.youtube.com/@MieMu

三重県総合文化センター

サマープログラムfor KID's
アソボ・マナボ・タノシソウブン
「8月10日はアソボーデ～！」

そうぶんでは、夏休み中に子ども向けイベントを多数開催します。中でも8月10日のアソボーデ～！は予約不要で遊べる一日。子どもオーケストラ教室や、工作、アート、パラスポーツ体験、こわ～いお話会など、多彩なプログラムが集合！
他にもお弁当やお菓子を販売するマルシェも開催。
屋内なのでお天気の心配なく遊べます。

日　時 8月10日（日）午前10時～午後4時
会　場 三重県総合文化センター内 第1ギャラリーほか
参加費 無料（物販は有料）
ＵＲＬ https://www.center-mie.or.jp/soubun/child/asobo2025

問い合わせ先
三重県総合文化センター総務部
津市一身田上津部田1234
Tel 059-233-1105　Fax 059-233-1106
休館日：月曜日（祝日にあたる日は開館、翌平日閉館）
三重県総合文化センターは、文化会館・生涯学習センター・男女共同参画センター「フレンテみえ」・県立図書館・放送大学三重学習センターから構成される複合施設です。

三重県立図書館

子ども向け調べ方案内

県立図書館では、三重県に関する物事について調べる場合に便利な子ども向け調べ方案内シリーズを作成しました。
夏休みの自由研究などで、三重県の人物や伝統産業、祭りなどを調べる際に役立つ資料を紹介しています。
No. 1 ～ 10まで様々な題材を取り上げており、子どもだけでなく大人の方にもご利用いただける資料を紹介していますので、ぜひご活用ください。
子ども向け調べ方案内は、図書館の入り口や地域資料コーナーなどで配布しています。また、当館のウェブサイトからもご覧いただけます。
（URL：https://www.library.pref.mie.lg.jp/find-book/pathfinder/）

問い合わせ先
三重県津市一身田上津部田1234
Tel 059-233-1180　Fax 059-233-1190
開館時間：午前9時～午後7時
休館日：月曜日（祝日にあたる日は開館、翌日閉館）、月末（土日祝日の場合は、その直前の平日）、年末年始、特別整理期間

三重県立美術館

コレクションによる特別展示
ルックバック：近代 洋画

幕末から明治にかけて西洋より伝わった技法や思想を取り入れ、独自の展開を遂げた日本の油彩画＝「洋画」。近代日本と洋画家たちの 80 年間の奮闘を館所蔵の作品約 100 点により振り返ります。

松本竣介《建物》1947年頃
三重県立美術館蔵

期　間 7月6日（日）まで
観覧料 一般700円　学生600円
高校生以下無料

問い合わせ先
三重県津市大谷町11
Tel 059-227-2100　Fax 059-223-0570
開館時間：午前9時30分～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
休館日：月曜日
（祝日にあたる日は開館、翌日閉館）、年末年始

三重県環境生活部 文化振興課 歴史公文書班

三重県では、歴史資料として重要な公文書等を“特定歴史公文書等”として三重県総合博物館で保存しており、利用申請手続きにより、総合博物館内の資料閲覧室でご覧いただくことができます。また、資料閲覧室では、定期的に特定歴史公文書等の企画展示もおこなっています。詳しくはHPをご覧ください。

ＵＲＬ https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/000236866.htm **問い合わせ先** 三重県環境生活部 文化振興課 歴史公文書班
三重県津市一身田上津部田3060　総合博物館3階　Tel 059-253-3690　Fax 059-229-8310

三重県総合博物館情報誌「みえんしす」
「三重の」を、生物に与えられる世界共通の名前である「学名」であらわすと「*miensis*=みえんしす」となります。この情報誌「みえんしす」は、博物館でもよく使われる学名にちなんであらわしました。生物だけでなく、博物館が発信する様々な「三重の」をこめて。

発行日：2025年6月15日（禁・無断転載）
企画・編集・発行：三重県総合博物館
印刷：有限会社ミフジ印刷